

平成29年度 学校評価について

1 集計結果について

(1) 回収率：100%（64人）

(2) 各学部の評価平均

学 部	最 終	中 間
小学部	3.75	3.52
中学部	3.73	3.64
高等部	3.53	3.38
事務部	3.55	3.63
全 体	3.64	3.52

(3) 課題項目、良好項目について

昨年度に引き続き課題項目、良好項目を次のように設定する。

3.00未満・・・課題項目

3.30以上・・・良好項目

	最 終	中 間
課題項目	該当項目なし	該当項目なし
良好項目	全ての項目	14項目／全16項目

教育公務員としての責任・自覚	①(重点)	・ <u>教職員としての適切な言動ができるように人権ヒヤリハットについて、事例についての振り返りや相互チェックを定期的に行っているか？</u>	3.57	3.64
	②(通常)	・ 「生徒指導等に当たっての自己チェックリスト」等を使うなどして、 <u>服務規律の厳正確保に努めているか？</u>	3.71	
安心して学べる教育環境の整備	③(重点)	・ <u>ヒヤリハット事例を素早く報告(情報共有)し、再発防止のための対策や改善策に活用しているか？</u>	3.79	3.64
	④(通常)	・ <u>児童生徒が安心して、安全に学校生活を送れるように教室の整理・整頓を心掛け校内外の施設や設備を整え、更に充実するように努めているか？</u>	3.46	
一人一人の教育的ニーズに応える指導の充実	⑤(重点)	・ <u>個別の指導計画を活用した授業づくりを積極的に行っているか？</u>	3.43	3.49
	⑥(通常)	・ <u>教材研究の日や研修等を通して、課題を解決するために必要な指導方法、指導技術の研究に取り組んでいるか？</u>	3.49	
	⑦(重点)	・ <u>授業改善のためにチームで日常的に話し合う機会や環境を整えているか？</u>	3.56	
センター的機能の充実と本校の理解・啓発	⑧(重点)	・ <u>学校見学会や離島での研修会など本校の理解・啓発のための取組を企画・実施しているか？</u>	3.89	3.89
	⑨(通常)	・ <u>巡回相談やサマーセミナーなどセンター的機能の充実を図るための取組を企画・実施しているか？</u>	3.9	
関係者等との協力・連携	⑩(通常)	・ <u>地域の人的・物的資源を活用した教育活動を工夫しているか？</u>	3.73	3.7
	⑪(重点)	・ <u>保護者や学園、関係機関などと連携を図りながら組織的な指導が進められているか？</u>	3.67	
進路指導、キャリア教育について	⑫(通常)	・ <u>進路先や関係機関と連携を図りながら、児童生徒の発達段階に合わせた進路指導を行っているか？</u>	3.68	3.69
	⑬(通常)	・ <u>児童生徒と保護者が行う事業所等での体験活動など、児童生徒の将来の進路実現に向けての取組を企画・推進しているか？</u>	3.71	
保健・生徒指導について	⑭(重点)	・ <u>児童生徒の肥満状況の改善について、具体的な取組を行っているか？</u>	3.52	3.59
	⑮(重点)	・ <u>児童生徒実態や生徒の心得等の共通理解を図り、組織的な生徒指導が行われているか？</u>	3.57	
	⑯(通常)	・ <u>児童生徒の放課後活動を支援する取組は充実しているか？</u>	3.68	

2 分 析

(1) 教職員による自己評価の結果について

全項目において、中間と比較して評価が上がり高い評価になっている。課題項目等はないが更なる教育活動の向上を目指して、以下の四つの項目について今後重点的に取り組んでいくようにしたい。

- ・ 個別の指導計画を活用した授業づくり
- ・ 話し合いの時間や教材研究の時間の確保
- ・ 肥満改善に向けて、家庭、関係機関への情報発信の拡充。
- ・ 安心安全な教室の環境整備

(2) 保護者・学園職員による評価の結果について

全項目において高い評価をいただいている。

個に応じた指導と相談の対応について「2」あまりそう思わない、「1」そう思わないの評価がある。丁寧な対応と説明により一層心掛けていきたい。

(3) 地域・後援会による評価の結果について

子供たちの生き生きと活動している様子について高い評価をいただいている。今後は地域との触れ合いなどの活動を通して、理解を広めたり深めたりすることが必要である。

3 次年度に向けて

分析の結果から次年度に向けて、以下の項目について重点的に取り組みながらよりよい教育活動の充実を図っていきたい。

○ 個別の指導計画を生かした授業づくり

見通しをもって授業を行うために、学期初めに目標を立て、子供の実態に応じて学習内容を設定する。また、保護者に対して、分かりやすく丁寧な説明を心掛けていく。

○ 充実した授業づくりのための有効な時間の活用

教材研究や授業についての話し合いがより多くとれるように会議や行事の精選はもちろんのこと、ふとした合間の時間でも子供の話題や授業についての話ができるような環境づくりを心掛ける。

○ 肥満改善に向けた情報の共有や共通理解

現在の取組を継続し、運動量の確保を図りながら、生涯にわたり体を動かす楽しさを育成できるような活動を充実させていく。また、学校だけでなく家庭や関係機関とも連携を図りながら、食育についての情報提供を積極的に行っていく。

○ 児童生徒が安心して学べる学校・教室の環境整備

安心、安全な学校を目指し、子供の模範となるよう教師が率先して清掃活動や整理整頓を行い、落ち着いて学習に取り組めるような環境づくりに努めていく。